

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

機能画像によるアルツハイマー病へのアプローチ
—J-ADNI 研究の進捗と臨床研究の基盤整備—

脳機能画像診断開発部

伊藤 健吾 部長

平成 24 年 11 月 8 日(木) 16 時 00 分～

東棟 2 階会議室

前回の報告会では、「何がわかってきたのか、何をしようとしているのか」との副題でアルツハイマー病の画像診断に関わる多施設共同研究への取り組みと長寿医療研究センターにおける今後の画像研究の方向性について報告した。今回はアルツハイマー病の画像診断に関わる多施設共同研究のうち J-ADNI における PET 研究の進捗状況を報告すると共に、J-ADNI と密接に連携しながらその成果を取り入れて立ち上げている「認知症臨床研究・治験ネットワーク」についても紹介する。

J-ADNI 研究では、2008 年 8 月から症例登録が開始され、2012 年 3 月末に登録が終了した。最終的に MCI 244 例、AD 148 例、健常高齢者 152 例、合計 544 例が登録された。このうち、FDG-PET は 67%、アミロイド PET は 42% で実施されている。追跡調査を含めた総 visit 数はすでに 2,500 件に及んでいる。J-ADNI の進捗に伴い標準化と品質管理が徹底された画像データの蓄積が進んでおり、種々の画像解析が実施されている。FDG-PET、PiB によるアミロイド PET の画像所見をもとに MCI を区分すると、MCI は異なる病理学的背景を持つヘテロなグループであることが示され、その区分は予後に密接に関連していることがわかった。また、FDG-PET の進行度評価のマーカーとしての検討も進んでいる。PiB PET では、データ互換性の確認による国際的な臨床研究や治験の実現可能性、アミロイド集積に対する影響因子（ApoE 遺伝型、年齢、人種差）の検討が進んでいる。

一方、J-ADNI など臨床研究の成果をアルツハイマー病治療薬の開発に活かすべく、認知症臨床研究・治験ネットワークの構築・整備をソフト（標準業務手順書の作成、人材育成、情報共有の仕組みなど）、ハード（PET 薬剤の製造環境の GMP 化、IT 基盤によるテレビ会議システムの構築など）の両面で進めているのでこれについても報告する。